

本 庄 ふ る さ と 会 会 報  
 第 6 号  
 平成 5 年 3 月 1 日  
 編集・発行 ふ る さ と 会 会 報  
 本 編 集 委 員 会  
 事 務 局  
 ◇秋田県本庄市出戸町字尾崎17  
 本 庄 市 産 業 経 済 部 地 域 振 興 課  
 ☎ 0 1 8 4 ( 2 4 ) 4 1 8 1  
 ◇東京都大田区北馬込  
 荒 川 医 院 内  
 題 字 後 藤 竹 清



ご紹介ください  
 会員募集中!!

会の充実と発展・拡大を図るため  
 新会員を募集しています。親族、知  
 人等可能な範囲において、本庄市出  
 身首都圏在住者をご紹介ください。  
 お問い合わせ  
 本庄市産業経済部地域振興課内  
 本庄ふるさと会 事務局  
 ☎ 0184-24-4181

第四回「本庄ふるさと会」総会  
 11月29日 盛会裏に終る

第四回総会が、去る11月29日(日)二〇〇名の会員と柳田本庄市長はじめ、来賓・関係者二〇名が出席して港区のホテル高輪で盛大に開かれました。

(ふるさと会の魅力)

江東区 諏訪(梅津)ひな子  
 (西日役町出身)

11月29日、私は職員旅行先である箱根からふるさと会総会会場に直行しました。

三十代も後半の頃から、ノスタルジーと言うのか、年をとったというのか、無性に青春の一時期を一緒に過ごした友達に会いたくなり、始めたクラス会では五人集まりました。それが今では、ふるさと会が縁で大きな輪に広がっています。この紙面をお借りして「ふるさと会の魅力」について書きたいと思えます。

第一に、物産展で本庄の香りを味わえることです。昔懐かしい味に感激し、あれもこれもと手がのびてしまいます。

総会に出席して

第二に、本庄弁を堪能出来ることです。会報の中の「本庄の話」ことば「は皆さん声を出し本庄弁のイントネーションにして楽しんでいられるのではないのでしょうか。この本庄弁を生で聴くことに浸ったり又、話をして安堵感を持つことが出来ます。

第三に、本庄弁が飛び交うと、老若男女誰でも仲良くなってしまう空気が実に最高です。

第四に、楽しいアトラクションや、本庄の特産品が当たる抽選会があることです。(二年続けて当ててしまいました)

いろいろ企画に当たってくださる、役員の皆様や事務局の市地域振興課の方々に感謝申し上げます。最後になりましたが、本庄市の益々のご発展とご繁栄をお祈り申し上げます。

(本庄ふるさと会を思うとき)

座間市 菅原 和洋  
 (仁賀保町出身)

ふるさととは遠きにありて思うものとして悲しく歌うもの。私は啄木が好きで「ふるさと」を思いおこし、愛着をいだいた詩をよく口ずさみます。

そんな故郷を思い出させるような「本庄ふるさと会」にある日友人から「君は仁賀保の出身だが本庄高校の卒業生でもあるので是非皆さんに紹介するから出席するように」とすすめられ、昨年の11月の総会に参加をさせていただきました。

多くの先輩、同級、後輩の方々にお会い出来、それぞれの分野ですばらしい活躍をされ、ご努力をされているお話や昔話に花を咲かせ、盛況の中で話しの尽きない一日を過ごさせてくださいたいことに感謝申し上げます。

私は神奈川県議会議員という公職に携わっていることもあって、今日の課題である景気対策の問題や政治倫理、環境問題、これからの高齢者福祉対策、そして米どころ秋田の米対策などに対する注文や意見も沢山いただきました。また、同級生からは息子の嫁さん探しの話などを頼まれるなど、仕事が一ツ二ツ増えたようです。

今、やりがいのある仕事に励んでいる毎日ですが、機会があれば中学一年から六回登山をした「鳥海山」に是非もう一度挑戦を試みたいと思います。今年こそその仲間を「本庄ふるさと会」で探そうと今から内心楽しみにしているところです。

幹事長の飯田様の御好意による宿舎の確保、又幹事の安保・工藤両氏そして参加者各位の御協力により楽しい旅行会が出来ましたことをご報告いたします。

文責 幹事 池田

親睦バス旅行会…秋の箱根路を走る!!

早朝より激しい雨の中、去る10月15日(木)16日(金)伊豆湯河原方面へのふるさと会バス旅行が行われました。平日の旅行とのことでしたが、初参加者数も心配されました。28名(男8名女20名)の参加を得て、国際興業のデラックスバスで終始「本庄弁」まるだしのなごやかな家族的雰囲気です。箱根路へ。



デラックスバスの前で……なごやかな雰囲気

参加者の声

(湯河原の宿)

川崎市 津曲 照子(田尻出身)  
 冷たい雨の降る新宿を出発した時は、これから先が心配でしたが、芦ノ湖の成川美術館が丁度創業日との事で、思いがけず黒川茂明画伯のコスモスの色紙を頂き、又、ペゴニア園では、種々色とりどりの満開のペゴニア等を観賞し、晴れやかな気分になりました。

「本庄ふるさと会」貸切の宿、湯河原石油会館に着き、溢れる温泉で疲れをいやし、塚本副会長さんの乾杯で宴会開始。勿論お酒は、ふるさと本庄からの差入れの物です。料理長ご自慢の秋が盛り沢山の料理や、見事な海の幸の舟盛りには大感激。

二次会では大広間の舞台狭しと女人はだしの踊り、民謡、カラオケ等それはもう大演芸会。三次会は、皆さんの本庄での思い出多し四方山話を懐しく聞いて心が和む思いでした。「〇〇町の〇〇さんの近所です」「〇〇の姉です」「〇〇さんと遊び友達」等、伺がただで旧知の仲になってしま

うのは本庄に不思議なものです。一夜明け晴天となり、また観光バスで周囲の紅葉の箱根路を眺めたり、くさみじの元箱根の湿生花園を散策したり、MOA美術館で、野々村仁清の壺等を鑑賞しました。味覚の秋・芸術の秋の楽しい二日間の旅でした。

(本庄弁でのバス旅行)

横浜市 村上 正美(東町出身)

子供の頃の旅行の如く早朝目が開いた。家中の睡眠の邪魔になつたらしいが、知らぬが「唯わくわく。ふる里の方々とお逢い出来ることのみ頭の中に早めに家を出た。

自称東北の江戸っ子の私も、地図を頼りに新宿の地下道を直進、出口がわからずグンヤゲデ来た。人に聞きながらようやく間に合いホットする。昔のお嬢さん達が大勢いたが顔の分る方はおらず少し残念、唯工藤君との出合いでホッとしたが、四十余年の年月の長さを感じた。

いよいよバスが発車、自己紹介に本庄の匂いがして落ちてきた。好物の酒が出るや段々とほっけの大鼓で自我が出て来た。ましてや本庄弁で安心、方言はふるさとの勲章である。車中今日は本庄弁でいこうと言う方々は、お腹の中で本庄弁がとろろを巻いているらしい。車外は雨でも車内は花盛り、本庄弁でしゃべればふる里が一層身近になり皆初めてとは思えない。箱根は我が庭と思っていたが、成川美術館、ペゴニア園等知らぬ所が多い。箱根にいて由利原を通っているような風景。宴会も遠慮なく本庄弁での唄や踊りでまさにメルヘンの世界、本当にエガッた。

朝食時に酒が出る、頭と体は別らしくすぐ手が出る。MOA美術館は格別で偉くなった気分である。エガッた。今から楽しみである。幹事さん有り難う。実に愉快で楽しい旅行でした。

# 会員の健康

## 二十一世紀と

### 私たちの健康



医学博士 莊司 榮徳  
(千葉市在住・裏尾崎町出身)

お元気ですか？  
私も六十六歳になりましたが、お蔭様で元気に過ごしています。ところで、今年は一九九三年、あと七年で二十一世紀です。新世紀に入ってもない二〇〇四年には本庄市五十周年を迎えることとなります。

元気がいいものですね。  
ふるさと会のお若い方々にとっでは働き盛りの新しい時代であって欲しいし、ご年輩の方々にとっては人生を味わう恵まれた時期であって欲しいと思います。

それにしても気になるのは自分の健康であり、兄弟、家族、友人の健康です。  
そのお役に立つようにとの編集の企画に際して、ヘルスアドバイザーを続けることにしました。

私の父もそうでしたが、戦中から戦後にかけて、結核で亡くなる方が大勢おりました。また肺炎や消化器の伝染病で命を失う方も多くみられました。

しかし、医学の発達や公衆衛生の普及、生活の向上によって、こうした感染症と言われる病気が激減しました。赤ちゃんや子供を亡くす悲しみは減りましたし、一家の柱を失う悲しみも減りました。

こうして日本人の寿命は急速に伸び、平均寿命で男は七十五歳余、女は八十一歳余まで伸びました。二〇〇〇年頃まであと二年ほど伸びて、頭打ちになるものと推定されています。

しかし、病気が減りましたが、赤ちゃんの生まれる数も年々減少して来ましたが、人口統計を見ますと、戦後のベビーブームは別として、出生数の減少傾向は止まっています。女性が一生涯の間にもうける子供の数はここ数年は、一・五人程度に落ちています。

この傾向はしばらく続くでしょうから、わが国の人口は二十一世紀に向かってもうしばらく増えつづけますが、二〇一〇年頃に一億三千万人のピークを迎え、以後減少するものと思われまします。

こうして私たちは、世界に例をみない高齢化社会で暮らすことになるわけですね。  
そのころの人口構成を推定した資料を見ると、十八歳以下の子供が約四分の一、六十五歳以上の高齢者が四分の一程度となりますから、残り半分の人で家庭を守り、国を支えて行かなければならないこととなります。

こうなるかと余生を楽しむどころか、お年寄りも自立して元気で働かなければなりません。  
しかし、ここでまた難問が出て来ます。それは、五十歳以上になると慢性的な病気を増やして、男子では四割、女子では三割ぐらいいなることです。

その持病の大部分は慢性的な病気で、目立つのは高血圧・糖尿病・虚血性心疾患(心筋梗塞や狭心症)・肝機能障害(肝臓の病気)となっています。  
しかも困ったことに、最近その増加傾向が著しいのです。一九七五年から十年間の国民健康調査によると、六十五歳以上の層で、高血圧は約一・五倍、糖尿病は三倍弱、虚血性心疾患は約四倍に増えているのです。

これらの三つの病気が中年層でも増加の傾向が見られて問題ですが、肝臓の病気が高齢層より中年層で増加の勢いが強く、この点も注意しなければなりません。  
高齢化社会で暮らす私たちにあって、警戒を要する病気には癌も病気がつまり成人病が特に警戒を要することになります。(つづく)

## 第3回 あきたまちとむらのつどい

去る2月11日(木)東京都練馬区的光が丘ライフステーションI・M・Aに於いて、都市と農村の交流を目的とした「第三回あきたまちとむらのつどい」が行われ、企業及び学識経験者をはじめ、光が丘地区居住者、そして在京ふるさと会代表の出席がありました。本庄ふるさと会からも畑山ツイさん(八王子市在住)に出席していただきました。

交流会では、キリタンボやうどんなどの試食を取り入れながら都市生活者と農村リーダーの間で活発な意見が交わされました。まず、安全な商品の提供について、都市消費者側から無農薬・無添加の食品を購入したいという声があり、生産者(農家)がどのような環境で、どのようなこだわりをもって生産しているかを知りたいという意見が出されました。

以上のことから考えても、本庄の特産品を自信を持ってPRするには、ふるさと会会員と本庄の生産者がじっくり膝を交え納得いただいた上で、ふるさとのPR大使として首都圏で販路の開拓や拡大に協力いただければと痛感しました。また、首都圏には秋田県の36の在京ふるさと会が結成されており、その相互の連絡を取り合い、情報を提供し合うことにより、更に購買力の向上につながるのではないかと考えました。

本庄市立北中学校と成って、初めての一年生。夏休みまでは南中学校の人たちと同居ということですが、すべてを教室にしてスタート。ベビーブームということもあって、ギューギューと卒業して、それぞれでクラス会はやっていたのですが、昨年3月29日、恩師の堀江先生が上京されるといふ事を聞いて「私たちもかたせでくれ」とお願いして、いろんなクラスの人たちが上野公園口に集合することになりました。あいにくの雨模様。みんなを待ちながら傘をさしかけ、もう酒盛り。昔のヤンチャ坊主がまあマメな事!! スーパーでダンボールを調達してきて持参のレジャーシートを敷いて花見会場の出来上がり。雨の方も迫力に負けて一時ストップ。鶴舞公園を思い出しながら28年ぶりに会った人もおり、話し合いの時を過ごしました。その時の参加者は一八名。現在関東在住者で連絡のとれている人が四〇名程、まだ始まったばかりの会ですが、これを機に輪を広げていきたいと思います。

S23年4月2日、24年4月1日までに誕生した覚えのある方は、今年の本庄ふるさと会総会に出席して下さることをお願いします。

## 会員だより

まだ名前はないんです  
横浜市 松本(石崎)幸江  
(石崎新町出身)

本庄市立北中学校と成って、初めての一年生。夏休みまでは南中学校の人たちと同居ということですが、すべてを教室にしてスタート。ベビーブームということもあって、ギューギューと卒業して、それぞれでクラス会はやっていたのですが、昨年3月29日、恩師の堀江先生が上京されるといふ事を聞いて「私たちもかたせでくれ」とお願いして、いろんなクラスの人たちが上野公園口に集合することになりました。あいにくの雨模様。みんなを待ちながら傘をさしかけ、もう酒盛り。昔のヤンチャ坊主がまあマメな事!! スーパーでダンボールを調達してきて持参のレジャーシートを敷いて花見会場の出来上がり。雨の方も迫力に負けて一時ストップ。鶴舞公園を思い出しながら28年ぶりに会った人もおり、話し合いの時を過ごしました。その時の参加者は一八名。現在関東在住者で連絡のとれている人が四〇名程、まだ始まったばかりの会ですが、これを機に輪を広げていきたいと思います。



上野公園で28年振りの再会

## お知らせ

塚本副会長栄えある叙勲  
昨春秋の叙勲で本会の塚本信一副会長(足立区在住)が保健衛生功勞により、栄えある勲四等旭日小綬章を受章されました。おめでとうございます。

「Aターンプラザ秋田」のご利用を!!  
秋田県内の就職情報や住宅等の生活関連情報の提供、就職相談等を行っていただきますのでご利用ください。(JR有楽町駅前東京会館11階フリーダイヤル012001122255)

新会員の紹介  
この度、二四名の方が新会員となり、二月末現在で八七三名の会員数となりました。紙面の都合でお名前を掲載出来ませんので別紙名簿をご覧ください。

編集後記  
第六号は「会員の健康」や「ふるさとへのこだわり」等新しい企画も入れてみました。この会報が更に会員とふるさとのパイプ役になれば幸いです。この会報が編集委員の大井氏の後、微力ながら頑張りますので皆様のご協力ご寄稿をお願い申し上げます。(池田)

## 五周年を迎える「本庄ふるさと会」

平成元年11月22日に、本庄市をはじめ関係各位のご協力をいただき、設立五周年を迎えることになりました。この間、会員相互の親睦と交流を図るため総会の開催や、会報「本庄ふるさと会」並びに会員名簿の発行、そして、ふるさと訪問ツアーの実施など所期の目的を果しながら着々と歩んでおります。

設立五周年の節目を迎えるにあたり、役員会では次のような主な記念事業を計画しておりますので、会員皆様の更なるご協力をよろしくお願いします。  
平成5年11月14日(日) 目黒 雅叙園(目黒区)  
一、会員名簿改訂版発行  
一、本庄市制四〇周年記念協力事業  
一、親睦旅行会(9・19日)・(20日) 旅行地 信州方面

本庄の話しことは  
俚 謡  
すずめどん すずめどん なして そき とまった  
はらへって とまった はらへたら たつづれ  
たつづれば よんごえる よんごえたら あらえ  
あらえば ながえなる ながえたら  
よしのねっこさ たんぐつけ たんぐつけば て きえる  
て きえたら くすりつけれ くすりつければ へえたがる  
へえたがたら あおげ あおげば さび  
さびがら あだれ あだれば びんこのかみ みなすすける  
・ たつづれ(田を作れ) ・ へえ(獲)

本庄市五軒町 佐藤勲子(主婦) 発行「本庄の話しことば」より転載  
本庄市五軒町 佐藤勲子(主婦) 発行「本庄の話しことば」より転載